

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	KINETIC AMETHYST		投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.490	△RG 0.038	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール			

テストボール：KINETIC AMETHYST

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番

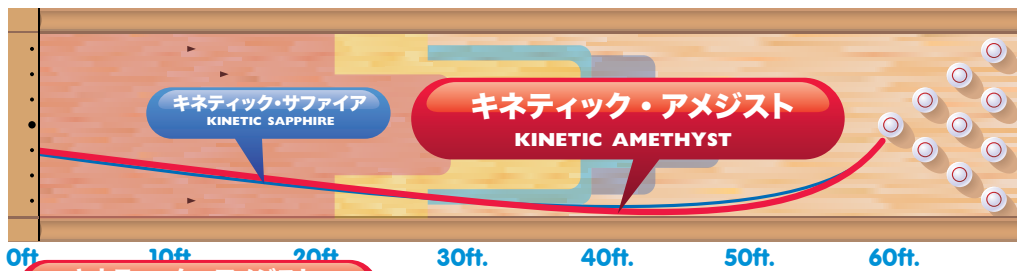
比較対照ボール：KINETIC SAPPHIRE

フレアーの幅 インチ

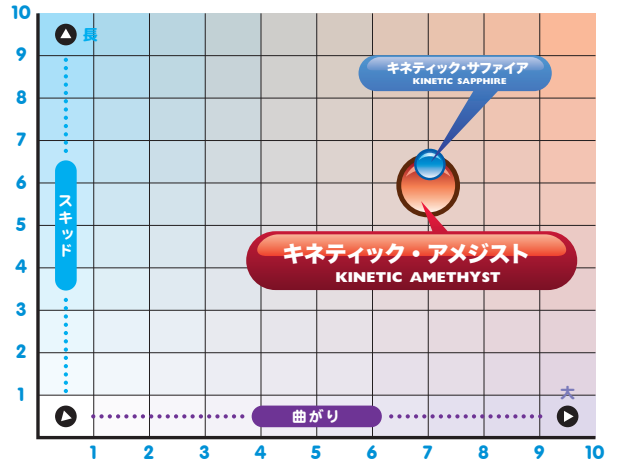
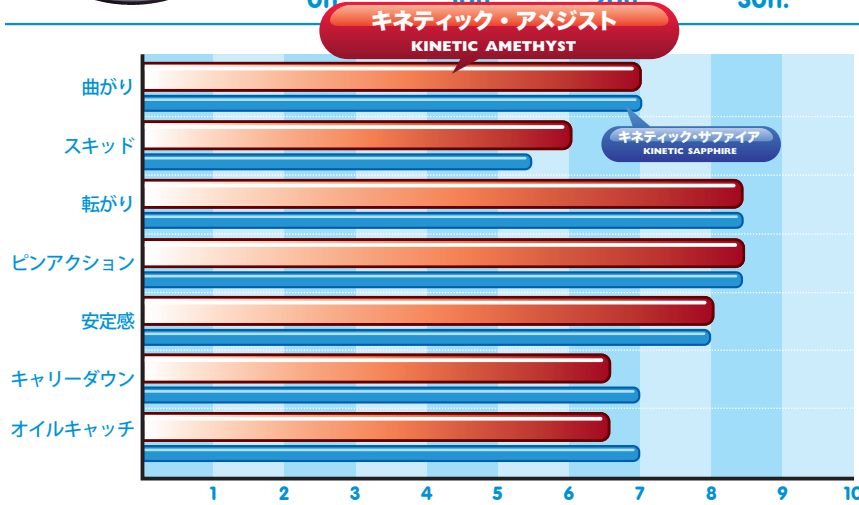
PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

TRACK社のミディアム領域の絶対的信頼感。やはりそれは今も昔も変わってはいません。しかもその絶対的信頼感に欠かせないもの、それがShuttleコア(いわゆるKineticコア)です。今回発売するKINETIC AMETHYSTはKINETIC EMERALDからスタートしたシリーズの第4弾。カバーストックが”6”の領域の中でさまざまなパフォーマンスを織り成してきましたが、AMETHYSTはパール素材を主に走り感と反応の良いパフォーマンスが際立つ逸品に仕上がっています。

今回のテストドライブはMR-6 HybridのSAPPHIREと比較検証を行いました。実際双方を投げ比べてみると、同じ”6”の領域でもSAPPHIREはややレーンの中盤から柔らかく動き出そうというイメージを感じ取れ、全体的な曲がり角が鋭ったイメージではなく、柔らかくキレル感じがみて取れます。一方AMETHYSTはSAPPHIREの曲がり始めをやや超えて、曲がり始めが先に行っているのがみて取れます。やはりそれはAMETHYSTに採用されたQR-6(Quick Response 6領域の略) Pearlの恩恵でしょう、SAPPHIREと比べAMETHYSTのほうが走り先でのキレ感が明確に感じられる性能と読み取りました。

私にはコンディションによってSAPPHIREのほうがコントロール性の高さを感じますし、ある領域では先での動きが強調されたAMETHYSTのほうがSAPPHIREよりも曲がり大きく感じる時もあります。双方の使い分けを要約すると、もし10番ピンのタップの結果がボールの原則不足のタップが原因である場合はSAPPHIREで、出し戻しのラインでポケットに対しての入射角不足が顕著な場合AMETHYSTという図式でも良いと思います。ご自分のポウラータイプが曲がりのイメージを”Midの動きを重要視する”タイプなのか”先での動きを重要視する”のかでSAPPHIREかAMETHYSTを決めても良いでしょう。あなたはこのKINETIC AMETHYSTを持つことでマイナスからプラスに転じることでしょ。

特記事項

ミディアム領域鉄板のModified KINETICコアの性能が誇る安定感と攻撃性。コンディションを攻めるうえで、このボールは欠かせません。